

市立大学等について

(企画調整局, 行財政局, 保健福祉局, 教育委員会事務局, 外国語大学)

・総括

1. 教育に関する財務事務の執行について(平成14年度包括外部監査結果報告書6頁)

現在、神戸市においては、高等教育を実施している市立大学等につき、「市としての教育に関する財務事務の執行」を総合的に監督調整している部局ないし部署がありません。国とは異なり市レベルでは、人的かつ経済的な制約があるとはいえ、これでは、組織として統一された意思による教育に関する財務事務の執行がなされているとはいいい難い状況にあります。

(企画調整局, 行財政局, 保健福祉局, 教育委員会事務局, 外国語大学)

措置方針等

財務事務の執行に関しては、市の予算会計制度に基づき、大学等で行っているところである。

監督調整に関しては、独立行政法人化などへの対応を含め所管部局でそれぞれ必要な監督調整を行うとともに、行財政局において総合的に監督調整を行っている。

(企画調整局)

15年度にご指摘の高等教育を実施している市立大学等を含め、全ての事務事業のゼロベースからの総点検を行ったほか、毎年の予算編成過程等において本市の教育機関における授業料・入学金等の改定や施策の重点化などについて、行財政局において統一的な監督・調整を行っている。

今後も、19年4月の外国語大学の地方独立行政法人化等、市立大学等を取り巻く環境の変化を十分踏まえながら、教育に関する財務事務の執行における総合的な監督・調整を図るための取り組みを進めていく。

(行財政局)

独立行政法人化問題等、共通する課題については、神戸市として取り組んでいく。

(保健福祉局)

独立行政法人化問題等、共通する課題については、神戸市として横断的に取り組んでいく。

(教育委員会事務局, 外国語大学)

2. 人件費について(前記報告書6~7頁)

歳出(支出)に対する人件費の割合は、実に72~82%を占めており支出額中最大の費目です。また、歳入額に対しては1.8~6.5倍にも及んでいます。

ところが、各市立大学等においては人件費(総額、給与体系等)に関し、国立大学、他の公立大学及び私立大学と詳細に比較分析し、自校における問題点を検討しようとしたことが殆んどないようです。

市立大学等の財政状況の悪化(平成12年度ベースで40億円の歳出超過)が、大学間の競争激化により更に進行すると予想される現在において、これに無関心では対応が不十分と考えられます。人件費の比較検討分析が出来ていないことは、財務事務管理上、問題と考えられます。

早急に比較検討分析し、その結果を今後の財務事務管理に活用する必要があります。これに関連して問題となるのは、現在、大学サイドでは「必要人員数(枠)」を決定できず、かつ、「給与等の金額」は基本的に神戸市が規定している給料表に拠る必要がある点です。これでは、各市立大学等において、「独自の人事施策」が極めて困難となってしまいます。

(企画調整局, 行財政局, 保健福祉局, 教育委員会事務局, 外国語大学)

措置方針等

ご指摘のとおり、市立大学等も神戸市の組織であるため、その人事施策はそれを所管する部局で決定している。

独立行政法人化の状況を踏まえつつ、独自の人事施策を行える体制づくりに努める。

外国語大学

4. 図書の実物管理について(前記報告書 26 頁)

図書の現物は閲覧室、書庫、教員保管に分散保管されています。このうち、定期的に棚卸を実施しているのは、閲覧室保管分のみです。書庫、教員保管分についても、定期的に棚卸を実施し、現物の保管状況を把握する必要があります(なお、書庫については、3年に一度棚卸を実施しているとのことですが、毎年実施する必要があります。)。この点についても、前述「2. 備品の棚卸について」で触れましたと同様に、棚卸自体について、「物品会計規則」では明確には規定されていませんが、過不足を整理するため、定期的に棚卸を実施して現在高を把握することが不可欠となっています。

(外国語大学)

措置内容

閲覧室保管図書に加えて書庫及び教員保管図書についても、緊急雇用交付金を用いて平成16年度末までに棚卸を実施し、現物の保管状況についてリストの作成を終了した。

平成17年度以降についても定期的に棚卸を実施していく。